

[119]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4772788>

出版情報：文學研究. 119, 2022-03-14. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



高山 倫明 教授

高山倫明教授略歴

一九五五年六月 福岡県に生まれる

一九八〇年三月 金沢大学法文学部哲史文学科卒業

一九八二年三月 九州大学大学院文学研究科国語学・国文学専攻修士課程修了

一九八五年三月 九州大学大学院文学研究科国語学・国文学専攻博士課程満期退学

一九八五年四月 島根大学法文学部専任講師

一九八七年九月 北京大学東語系日語科専家（一九八八年六月まで）

一九八八年四月 島根大学法文学部助教

一九九〇年四月 名古屋大学文学部助教

一九九三年四月 九州大学文学部助教

二〇〇〇年四月 九州大学大学院人文科学研究院助教

二〇〇七年四月 九州大学大学院人文科学研究院准教授

二〇〇七年七月 九州大学大学院人文科学研究院教授

二〇〇七年十月 九州大学総長特別補佐（二〇〇八年九月まで）

二〇〇八年四月 九州大学大学院人文科学研究院副研究院長（二〇一二年三月まで）

二〇一〇年四月 九州大学文学部評議員（二〇一二年三月まで）

二〇一二年四月 九州大学大学院人文科学研究院長・大学院人文科学府長・文学部長（二〇一四年三月まで）

二〇一五年四月 放送大学客員教授（二〇二〇年三月まで）

二〇二一年三月 定年退職

二〇二一年五月 九州大学名誉教授の称号を授与される

高山倫明教授著作目録

著 書

『日本語音韻史の研究』（単著）

『シリーズ日本語史1 音韻史』（共著）

ひつじ書房

二〇一二年 二月

岩波書店

二〇一六年 一月

論 文

原音声調から観た日本書紀音仮名表記試論

『語文研究』 51号 九州大学国語国文学会

一九八一年 六月

書紀歌謡音仮名と原音声調

『文献探究』 10号 文献探究の会

一九八二年 九月

書紀歌謡二音節名詞の表記について——アクセント語類との関連をめぐって——

『文献探究』 12号 文献探究の会

一九八三年 七月

日本書紀の音仮名とその原音声調について——上代アクセントとの相関性を考える——

『金田一春彦博士古稀記念論文集 第1巻』三省堂 一九八三年 二月

『東洋客遊略』長崎町名の音訳漢字表記について

『文献探究』 19号 文献探究の会

一九八七年 三月

中国資料と方言——『吾妻鏡補』所載の日本語——

『九州方言の史的研究』桜楓社

一九八九年 二月

吾妻鏡補の「国語解」の音注について

『奥村三雄教授退官記念国語学論叢』桜楓社

一九八九年 六月

連濁と連声濁

『訓点語と訓点資料』88号 訓点語学会

一九九二年三月

清濁小考

『日本語論究2 古典日本語と辞書』和泉書院

一九九二年十月

促音のあとの濁音

『島大国文』21号 島根大学国文学会

一九九三年三月

日本語音韻史の方法（日本語史研究入門…分野別研究法・音韻史）

『日本語学』19卷11号（臨時増刊号）明治書院

二〇〇〇年九月

連濁の音声学的蓋然性

『筑紫語学論叢 奥村三雄博士追悼記念論文集』風間書房

二〇〇一年四月

音訳漢字と声調——万葉仮名の場合——

『日本文化論叢「第1回中日文化教育研究フォーラム報告書」』大連理工大学出版社

二〇〇一年二月

日本語音韻史研究とその課題（特集「音韻史研究の現状と課題」）

『音声研究』7卷1号 日本音声学会

二〇〇三年四月

字音声調と日本語のアクセント

『国語学』54卷3号 国語学会

二〇〇三年七月

四つ仮名と前鼻音

『筑紫語学論叢Ⅱ』風間書房

二〇〇六年五月

音節構造と字余り論

『語文研究』100・101号 九州大学国語国文学会

二〇〇六年六月

濁音小考——有声阻害音の意味——

『古典語研究の焦点』武蔵野書院

二〇〇一年一月

無アクセントの史的 위치づけ

『文学研究』107輯 九州大学文学部

二〇〇一年三月

九州方言アクセントの古層

『海路』9号 石風社

二〇〇一年三月

音韻史と字余り

『国語と国文学』88卷8号 東京大学国語国文学会

二〇〇一年八月

「字余り法則」小考

『語文研究』126号 九州大学国語国文学会

二〇〇一年十二月

言語文化と日本語史（特集…日本語の言語文化）

『日本語学』38卷10号 明治書院

二〇〇一年十月

その他

- 平成八・九年における国語学会の展望・音韻（史的研究）『国語学』193集 国語学会 一九九八年六月
- 翁広平『吾妻鏡補』所載日本語史資料試解（一）『文学研究』95輯 九州大学文学部 一九九八年三月
- 翁広平『吾妻鏡補』所載日本語史資料試解（二）『文学研究』96輯 九州大学文学部 一九九九年三月
- 翁広平『吾妻鏡補』所載日本語史資料試解（三）『文学研究』97輯 九州大学文学部 二〇〇〇年三月
- 翁広平『吾妻鏡補』所載日本語史資料試解（四）『文学研究』98輯 九州大学文学部 二〇〇一年三月
- 漢文を訓む『文字をよむ』九州大学出版会 二〇〇二年三月
- 柳川方言恒河一撮『柳川市史別冊 新柳川明証図会』柳川市 二〇〇二年九月
- 音韻研究の動向と展望Ⅰ（文献中心）『朝倉日本語講座3 音声・音韻』朝倉書店 二〇〇三年六月
- 表記史の中の音韻史——文献学と音声学を軸に——（国語学会二〇〇三年度春季大会シンポジウム報告）『国語学』54巻4号 国語学会 二〇〇三年十月
- 万葉歌の字余りと「古代語」（日本語学会二〇〇五年度春季大会シンポジウム報告）『日本語の研究』2巻1号 日本語学会 二〇〇六年一月
- 誠実な饒舌（『平凡社ライブラリー 日本語の歴史』解説）『日本語の歴史3 言語芸術の花ひらく』平凡社 二〇〇七年三月
- 我思ふ所を人に傳るの法——漢字が日本語にもたらしたものの——『国語研究つくし野』32号 福岡県高等学校国漢部会 二〇〇九年六月
- 漢字で日本語を書く——万葉仮名の世界——『東アジア世界の交流と変容』九州大学出版会 二〇一一年三月
- 我思ふ所を人に傳るの法——漢字が日本語にもたらしたものの——

『国語研究つくし野』 34号 福岡県高等学校国漢部会 二〇一一年六月
比較方法と地理的分布——無アクセント方言をめぐって—— 『論叢 国語教育学』 8号 広島大学国語文化教育教育学講座

二〇一二年七月

万葉仮名とアクセント（日本歴史言語学会二〇一四年大会講演要旨）

『歴史言語学』 4号 日本歴史言語学会

二〇一五年十二月

An Attempt to Promote Open Data for Digital Humanities in Japanese University Libraries, *Proceedings of the 18th*

International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL2016) (共著)

二〇一六年十二月

春日政治（特集：日本語学を創った人々）

『日本語学』 39巻1号 明治書院

二〇二〇年三月